

| | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|--|-----------------|---|-----------|-----------------------|-------|-----------|----------|------------|----|
| 科目名 | 実践基盤看護学演習 I Practice foundation Nursing Seminar I | | 担当教員 (研究室番号) | 未定 灘波 浩子 (203) 菅原 啓太 (204) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | | | | | |
| 履修年次 | 1年次 前期 | 科目 区分 | 専門科目 | 選択 区分 | コース 必修 | 単位数 (時間) | 2(30) | 授業 形態 | 演習 | 科目等 履修生 | 否 |
| | | | | | | | | | | 遠隔授業 | 全部 |
| 科目目的 | 幅広い情報収集により、看護に関する最新の動向や課題について理解し、看護実践者・研究者としての自らの学習課題を見出す。 | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ポリシー (DP) | 主要なDP | 3. 地域の特性や変化する社会のニーズを的確に捉え、看護学教育および実践看護学に関する課題を追究していける研究能力を身につけている。 | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | 1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助・技術の概念と構造を理解することができる。 2. エビデンスに基づく看護援助・技術を行うことの意義について論考することができる。 3. 科学的根拠を導き出す検証方法について理解することができる。 4. 看護援助・技術に関する最新の動向についての学びから、看護実践者・研究者としての自らの学習課題を明確にすることができる。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 (基準) | クラスへの参加状況(40%)・プレゼンテーション (30%)・課題レポート (30%) による総合評価。 | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 必要時提示する。 | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 必要時提示する。 | | | | | | | | | | |
| 受講者へのメッセージ | 臨地で実践している看護援助・技術は、対象者にとってどのように有益であったのか、これまでの看護実践を問い返してみよう。 | | | | | | | | | | |
| 備考 | 授業は事前学習の成果をもとに進めます。 臨地教育者コースの学生については、基礎看護技術 I の指定された単元への参加と、指示された視点でまとめたレポートの提出により、(★)の学習とします。 | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | | 学習内容 | | | | 主担当 教員 | 授業 方法 | | |
| 1回 | オリエンテーション 看護援助・技術の概念と構造 | | | 看護援助・技術の概念・構造および、知識・技術と精神との関連について学ぶ。 | | | | 未定 | | | |
| 2回 | 看護援助・技術におけるEBNの歴史の変遷 | | | EBN (Evidence-Based Nursing) の歴史の変遷を学び、看護援助・技術における「根拠」の重要性について理解する。 | | | | 未定 | | | |
| 3回 | 看護援助・技術におけるエビデンス① | | | 根拠あるケアを導く5つのステップ、PIC0による臨床理論の定式化について学ぶ。 | | | | 未定 | | | |
| 4回 | 看護援助・技術におけるエビデンス② | | | 根拠あるケアを導く5つのステップにより、先行研究の内容を理解する。 | | | | 未定 | | | |
| 5回 | 看護援助・技術におけるエビデンス③ | | | 未だ明確な裏付けがなされていない看護援助について、ケアの機序や効果を解明する意義について整理する。 | | | | 未定 | | | |
| 6回 | 看護援助・技術におけるエビデンス④ | | | 未だ明確な裏付けがなされていない看護援助について、ケアの機序や効果を解明する方法について整理する。 | | | | 未定 | | | |
| 7回 ★ | 看護援助・技術におけるエビデンス⑤ | | | 看護援助の効果について検証されている研究について、ケアの機序や効果を探求することの意義、方法、内容を整理する。 | | | | 未定 | | | |
| 8回 | 看護援助・技術の開発・評価、エビデンスを追求することの重要性とその課題① | | | 未だ明確な裏付けがなされていないケアについて取り上げ、その機序や効果について実験的に解明していく研究方法を整理する。 | | | | 未定 | | | |
| 9回 ★ | 看護援助・技術の開発・評価、エビデンスを追求することの重要性とその課題② | | | 未だ明確な裏付けがなされていないケアについて取り上げ、その機序や効果について実験的に解明していく研究方法を探求する。 | | | | 未定 | | | |
| 10回 | 看護援助・技術の開発・評価、エビデンスを追求することの重要性とその課題③ | | | 未だ明確な裏付けがなされていないケアについて取り上げ、その機序や効果について量的に解明していく研究方法を整理する。 | | | | 灘波 | | | |
| 11回 ★ | 看護援助・技術の開発・評価、エビデンスを追求することの重要性とその課題④ | | | 未だ明確な裏付けがなされていないケアについて取り上げ、その機序や効果について量的に解明していく研究方法を探求する。 | | | | 灘波 | | | |
| 12回 | 看護援助・技術の開発・評価、エビデンスを追求することの重要性とその課題⑤ | | | 未だ明確な裏付けがなされていないケアについて取り上げ、その機序や効果について質的に解明していく研究方法を整理する。 | | | | 菅原 | | | |
| 13回 ★ | 看護援助・技術の開発・評価、エビデンスを追求することの重要性とその課題⑥ | | | 未だ明確な裏付けがなされていないケアについて取り上げ、その機序や効果について質的に解明していく研究方法を探求する。 | | | | 菅原 | | | |
| 14回 ★ | 看護援助・技術に関する学習課題① | | | 看護援助・技術に関する最新の動向から、看護実践者・研究者として明らかにしていきたい学習課題を整理する。 | | | | 未定 | | | |
| 15回 ★ | 看護援助・技術に関する学習課題② | | | 看護援助・技術に関する最新の動向についての学びから、看護実践者・研究者としての学習課題を明確にする。 | | | | 未定 | | | |